

北浦村議会だより

任の同意を求めると
について（別記のと

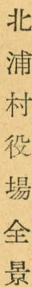
選挙才一号 議長選挙につ
いて (別記のとおり当

公民館出張徴収は二十八日と三十日の二日間です

針に関する通達が遅れているので、現行制度のもとに見通しを建て財政の健全性を目標として年間予算を編成するものとした。

2. 歳入について
予算の規模は七八、九八六、一〇〇円であるが収入面における主なものは次のとおりである。

果的使用に つとめ 制度の改
正を半う 合与費の増加等義



にござぬ選挙に澄む政治
わが子のために公明選挙
選んだあとより選ぶ前
この一票が政治を決める

立會議員の互選について

四六、七八〇、八二〇
100、0

務経費以外は前年度を超えざるよう意を用いたが本年度より改正戸籍法により戸籍法の編成替の経費を考慮し重点施策である中学校統合、道路改良経統事業の実施を計画した。

なお国民健康保険事業が発足日が浅いので育成のため繰出金を計上した。

イ 戸籍法の編成替について用紙其他事務的経費を増額する外戸籍簿保管に伴う書庫建設費を計上した。

ロ 中学校統合について中学校統合による建設費を敷地費自己財源一五二万円校舎建設費を国庫補助金、村教育債を財源に四二、三七五、〇〇〇円を計上した。

ハ 新村建設事業について道路改良工事前年度補助及び起債により実施した延長工事の経統実施費を百二十万円計上した。

ニ 国民健康保険事業について

ホ その他の経費については前年にならつて消費的経費の節減に努めたが各科目の詳細は次のとおりである。

4. 三月二十日村議会会で可決された昭和三十三年度歳入歳出予算は次のとおりである。

北浦村役員選任等のおしらせ

(三月改選)

議長 出久根 保(再選)

副議長 堀 豊(再選)

常任委員

総務委員会

委員長 宮本 幸雄

副委員長 河野 甚一

委員 有馬 実

堀 豊

山口 弘運

根本 行道

平野幸三郎

教育厚生委員会

委員長 伊勢山良治

副委員長 小沼 守次

委員 石橋 幸重

経済委員会

委員長 加納 佐一

副委員長 山野 勇

委員 堀 竹松

吉田藤之信

堀 久義

小沢 亀吉

建設委員会

委員長 額賀 孝三

副委員長 齊藤 金雄

委員 石橋 達雄

原 弘道

横田 格

内野 国造

選挙管理委員

千ヶ崎俊雄

柳川 清吉

堀 孟

成田 寛

横田 俊一

石橋 肇

監査委員

(学識) 内田隆三(再)

(議選) 根本行道(再)

臨時出納検査立会議員

平野幸三郎(再)

宮本 幸雄(再)

齊藤 金雄(再)

学校職員の異動

昭和三十三年度末及び三十一年度、小、中学校職員の異動
三年度当初において左表のとおりありました。

昭和三十三年三月末及び四月一日学校職員異動 (北浦教委)

学校名	職 氏 名	就 任 校	旧 任 校	職 氏 名	備 考
山田小 (定員九)	森 紀美	東茨城郡羽鳥小へ	新採 茨大四年卒	西野 晴美	常陸太田市木崎
繁昌小 (定員一四)	宮内 勲	大和才二小へ	猿島郡五霞小から	荒原 正雄	稲敷郡東村 繁昌小学
	今泉 元成	汐来町津知中へ	大和才三小から	鈴木 たか	級増につき増員
	原 ハツエ	麻生町太田小へ	三和才小から	額賀 勲夫	
	山野 宣純	新城小校長に	麻生町太田小から	中沢 正二	
要 小 (定員一四)	飛彈 テツ	新城小へ	要中から	根本 狂平	
	久保 武一	麻生町太田小へ	延方中から	古森由紀江	
	堀江 久彌	新城小へ	新城小から	吉原 次男	
新城小 (定員一四)	柏葉 直	延方小校長に	繁昌小から	内田 実	要小小学級増につき増員
	甲 節子	手賀小へ	玉造小から	沼崎 久彌	
	井坂 俊庸	玉造小へ	要小から	飛彈 テツ	
	千ヶ崎宇多	家事都合により退職	新採 茨大四年卒	小沼 好男	小川町小崎
	男庭 久嗣	要小へ	新採 茨大短大	沼崎 美子	荒川沖 学級増増員
小貫小 (定員一〇)	伊勢山 巖	野友小へ	玉造小から	坂本 昌子	山田才三分団 (分団長岡里昇吉氏)ではかねて鉄骨火の見の建設を計画していたが東京船山商店の請負で去る三月三十日立派に完成をみた。火の見は四脚で高さ三十六尺である。
	根本千枝子	手賀小へ	新採 茨大四年卒	近藤 進治	小川町倉敷 小貫小児
三和小 (定員六)	安東 省三	福島県牧本小へ	新採 駒沢大学卒	北村 哲朗	北相馬郡守谷町
津澄中 (定員一)	米川 和義	立花中へ	新採 青山大四卒	荒野 猛	麻生町矢幡
要 中 (定員七)	古森由紀江	要小へ	手賀中から	橋本 文子	
	千ヶ崎比古	大和才一小へ	新採 茨大四年卒	鈴木 均	木籍 土浦市
武田中 (定員一〇)	藤代 真	新治郡恋瀬中へ	新採 茨大四年卒	中川 勉	現住地 麻生町
	鈴木 一男	麻生町太田中へ			

戸籍改正について

村民の皆様へお願い

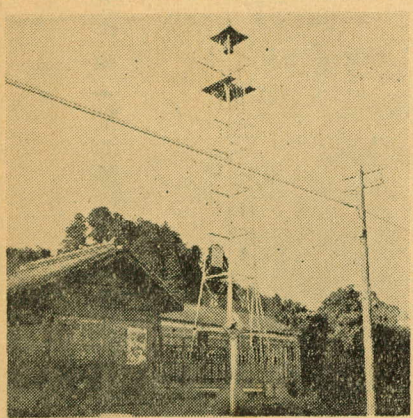
本年四月一日を期して全国一斉に旧法戸籍の改製が行われますが旧法戸籍とは夫婦親子、叔父、めい等二組以上の夫婦及びその他の親族から成る後記事例のような大家族を一丸とする戸籍のことです。この戸籍を一組の夫婦とその子までの範囲に止める新法の戸籍に編成替(分解して書きかえる)することになったのであります。その戸籍は各市町村とも備付戸籍総数の六割ないし七割というふうな大数になり、かつ改製事業は複雑困難であることを考慮して三ヶ年以内に完了すればよいことになりましたので、この間村民の皆様からご理解とご協力を願わなければなりません。特に次の点についてご協力をいただきますのであります。

一、改製が実施される四月からの戸籍の届出はなるべく本籍地に届出るようご協力を願います。(ただし出生は出生地で死亡は死亡地で届出ねばなりません。)

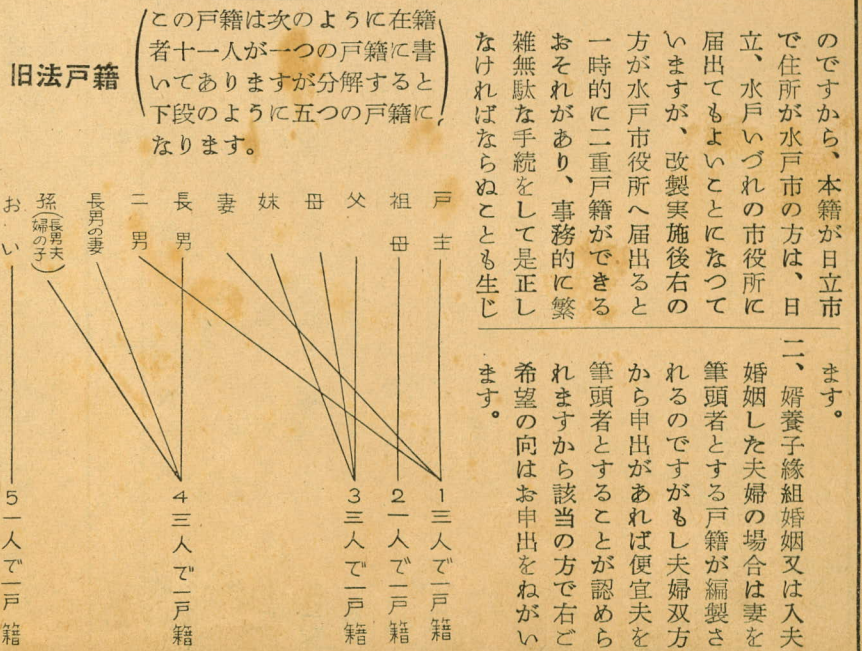
二、戸籍の届出は本籍地、住所地いづれに届出てよい。

鉄骨火の見完成

山田第三分団



山田才三分団(分団長岡里昇吉氏)ではかねて鉄骨火の建設計画していたが東京船山商店の請負で去る三月三十日立派に完成をみた。火の見は四脚で高さ三十六尺である。



家庭メモ

アルマイト鍋の手入法

アルマイト鍋はアルミニウムの表面に酸化被膜をつけて、「さびを防ぎ、耐酸性にしたもの」です。から煮物を焦げつかせて強くこすつたり、「みがき粉でみがいたり」しますと、表面の膜がはげ落ちてしまいます。このようなことは禁物です。「石けん」をへちまのようなやわらかいものにつけて洗うようにしましょう。

役場職員の異動

退職者(三月三十一日附)
書記 石橋重治 (両宿)
大堀 進 (繁昌)
小野瀬彦兵衛(内宿)
田谷栄子 (北高岡)
新採用(四月一日附)
書記補 本沢範昭 (小貫)

○花見どきになると、空巣、スリ、かつ払いが増加します。出かける時の戸じまりや出たときは懐中物に注意し、与太物や不良と思われる者には近寄らないようにしましょう。もし被害を受けたらすぐに警察に届けましょう。

○春の大掃除は、夏の健康を予約するようなものです。家族そろって分担をきめ、早朝から始めることです。